

平成 20 年度第 2 回建築学教育 F D / I T 活用研究委員会議事概要

- I. 日時：平成 20 年 8 月 26 日（土）午後 2 時から午後 4 時まで
- II. 場所：私立大学情報教育協会 事務局会議室
- III. 出席：若井委員長、衣袋委員、真下委員、寺尾委員、関口委員
井端事務局長、森下、恩田

IV. 議事概要

1. 建築工学の学士力について

今回は主に学士力に関して特に建築学としてどのように考えていくかについて各委員が事前に準備した資料をもとに検討した。

2. 各委員の意見

- ・ 規則、専門性と基礎教育のバランスが必要である。
- ・ 数行でまとめるということ点から、キーワード的に「国際性」「留学生の活性化」「コンピュータの位置づけ」「プレゼン能力」、より専門的に「建物の安全性（倫理性）問題」、基本的なものとして「社会・環境」への意識が表現できればよい。
- ・ 日本の建築教育の特徴である「包括性」に関しては表現の仕方が問題になる。
- ・ 建築基礎学力及び企画開発力、プレゼンテーション力が教育されることは当然として、コミュニケーション力が必要。
- ・ 基礎的、専門的な知識を構築するというのは当然だが、その基盤となる専門分野の教養という意味合いで高等学校の物理、化学、生物知識が、「導入部分」として位置づけられていけばよい。高校で習ったもの（例えば、微分・積分等）が、どういう分野で生かされ、どういうものと結びついているのかという当たりを網羅した「導入教育」の充実というのが大学にまずしっかりあり、基盤を押さえた上での大学専門教育へと入っていくのが一番スムーズであると思う。
- ・ 次に、コンピュータのシミュレーションだけの世界ではなく、建築実験、本当にものを見て触り、ハイブリットな形でシミュレーションとリンクしたもののづくりの教育に各大学で各々違ったウェイトをかけてもよい。
- ・ 三番目に学部教育で習った集大成、一つのを企画から最後まで創り、最終的にプレゼンテーションするという最終学年の卒業研究や卒業設計のウェイトをもう少し大きくし、社会、産業界で客観的に評価できるシステム、卒業試験等が必要である。
- ・ 一番は導入部分、2 番は大学間の特徴ある教育、3 番は卒業時の出口のチェックとなる。

- ・ 2002年7月30日の日本建築学会 JABEE 建築学及び建築学関連分野認定審査に関する基本的事項の説明の文章を参考に検討することも必要。

<日本建築学会 JABEE 建築学及び建築学関連分野認定審査に関する基本的事項>

- A 一般教養、工学基礎の知識及び能力。
- B 建築学全体像の教育、包括的な機構、組織の内容
 - B-1 は建築を建設技術その中で理解する知識
 - B-2 は建築学に関して幅広い専門的知識とその見識
 - B-3 建築とその生活環境に関する生産、維持管理

以上が、建築学科の専門的教育に相当。

- C は卒業研究に対応するもの。専門能力を束ねるような内容。

- ・ 今回の学士力は JABEE のいわゆる教育認証として建築学教育で必要なある意味ではカリキュラム体制みたいなものか。
- ・ ホリスティック、包括的に近い。系統的であり包み込む形のような教育。つまり縦割りのみに教えるのではなく縦横網目のように教える。
- ・ 建築士受験要件のための科目単位数の表は JABEE と必ずしも一致しないが、ある部分では同じようになっている。30年前の日本建築学会が出した資料をフィードバックして見ると、そっちのほうが妥当。
- ・ ホリスティックな教育のことを挙げている。ホリスティックな教育は日本独特の建築教育。
- ・ 三項目に挙げたものを学生に身に付けさせられるのは、色々なものを深く縦横に切らせてまとめて自分で発表する卒業研究であり、指導先生にとっても一番適している。
- ・ 以上の点をまとめ、建築学教育 F D / I T 活用研究委員会としての文章をつくらなといけない。
- ・ 9月末から10月にはまとめたと思う。まとめるに当たっては(社)私情協に登録されている建築の先生の意見を聞き、提案する。
- ・ 建築に関しては大きな社会問題が出てきており、先生方が考える身に付けるべき能力と産業界が考えている身に付けるべき能力のマッチングをはかるため産業界の意見も取り入れた上で最終的にまとめていきたいと考えている。
- ・ イメージとしては各分野共通の学士力の上に乗るとして固有の能力を提案する。
- ・ 第一段階は最低限の基準を端的にまとめ、第二段階ではトータルな知識、技能、態度、総合力を詳細に提案し、建築教育全体の学習成果の目標値を基礎になるものをまとめた。

4. 今後の予定

本日の検討を基に、次回まで全員がレジユメを書いてくることにする。

次回委員会 9月16日